

スキークラブニュース

2018年4月号

発行責任者

かながわブラインドスキークラブ/会長 T.K.

今年は何年ぶりという大雪に見舞われた2017-2018年スキーシーズンでした。お手元にこのニュースが届くころには「お花見と反省会」も終わり、当クラブの2018年度活動も滞りなく終えていることと思います。本号ではスキーイベント関連の報告と2017年度総会のご案内などをお伝えします。

I. ブラインドスキー・サポートガイドラインが完成！！

副会長 Y.K.

～近年、当クラブの課題は「世代交代と技能の伝承！」～

昨年の総会でスキー誘導技術の伝承を目的にパートナーマニュアルを作ろう！と決めました。早速、S.M.さん・T.M.さん・Y.K.の3名でワーキンググループを結成し、6月以降毎月集まってマニュアルの作成作業を行いました。その検討のなかで、ブラインドの見え方やスキー技術によって望ましい誘導法は異なるので「マニュアル」ではなく「ガイドライン」としたほうがよいのでは？ということになりました。10月以降はT.M.さんにイラストを、市川さんにレイアウトをお願いし、12月のシーズンイン研修会で皆さんに「ブラインドスキー・サポートガイドライン2017年版」をお披露目することができました。

作成にご協力くださった皆さん、ありがとうございます！新人もベテランも、パートナーのスキルアップにぜひこのガイドラインを活用してください。

II. 雪には恵まれた2017-2018シーズンでした

1. シーズンイン研修会報告

スノーヴァ新横浜で新人研修

役員会/事務局長 S.M.

スキーシーズンを前にクラブ初めての企画で、人工スキー場を使った研修会を実施しました。日時は11月23日(木・祝日)15:00~17:00で、会場は鶴見区三ツ池公園に隣接した「スノーヴァ新横浜」です。

新入会説明会参加者に来てもらう、という目論見は残念ながら今年は果たせませんでした。Y.F.さん、K.H.さん、S.S.さんの3人にとってはスキー誘導の基礎を学ぶよい機会になったと思います。また、経験を積んでいるO.M.さん、F.A.さんにとっても初心に戻って学びなおす良い機

会になったと思います。

残念ながらコースが短いため3ターン程度の誘導しか出来ませんでした。声の大きさやタイミングの取り方などの練習は出来ました。やはり雪上の研修は新人の不安を和らげるには効果があるようです。もちろん、17時過ぎから会場近隣で懇親会を開催し盛り上がりました。

「マニュアルからガイドラインへ」そして「カルテをもっとよくしよう！」

役員会/副会長 K.N.

12月9日(土)ライトセンターにおいて「ブラインドスキーガイドラインの理解及び実践準備」と題し、事故の多かった昨シーズンを踏まえ、新ガイドラインから安全なスキーを読み取り、安全かつ楽しく滑るためにはどうすべきかを考える機会とすべく、研修会を開催しました。参加者は総数34名(B11名、S24名)でした。

第一部では、ガイドライン作成に携わったY.K.さんからマニュアルからガイドラインへ変更された背景とその意義についてお話ししていただきました。

続いて第二部では、五つのグループに分かれてブラインドが普段言えない滑り方の本音や要望などを深掘りし、ブラインドそれぞれの最適な誘導方法について検討しました。最後に各グループの代表者が内容を発表し、全体でそれら情報の共有を行いました。発表された内容はツアー実施時に、最新情報としてカルテに追記することとしました。

研修会終了後、二俣川「大龍飯店」で忘年会を実施しました。参加者26名(B8名、S18名)今シーズンへの期待で盛り上がりました。

2、スキーツアー報告

岩原スキーツアー

実行委員長 K.Y.

2018年1月26日から28日にかけて、新潟県岩原スキー場へのツアーを実施しました。

参加者はブラインド13名、晴眼24名(内中学生1名)の計37名。初参加された方も4名おり、わいわいと東京駅を出発。

27日は、時折雪が降り、リフトでは風ビュービューで凍りそうな寒さのなか、パウダースノーのゲレンデを参加者それぞれ楽しみました。夕食ではその日の反省をしたり、感想を話し合ったり、ヒヤリハットをまとめたりと、美味しい食事をいただきながらも充実の時間を過ごしました。自由参加の懇親会も和やかに進み、皆さんそれぞれ話が弾んでいたようです。初参加の方々も和気あいあいすっかりみなさんに溶け込んでいました。

28日最終日は、お天気に恵まれ、前日たっぷり降った雪を更に楽しむことができました。初参加された方々はそれぞれの班に入り、パートナーをしっかりと勤めてくださいました。今後も期待でき頼もしい限りです。

今回は、大きな怪我もなく、安全なツアーになりました。今後も日程や班編成等、工夫しながら楽しいツアーを作っていきたいと思います。

(※)本ツアーが点字毎日の取材を受けました。以下に掲載された記事を紹介します。

点字毎日第 4879 号

2018 (平成 30) 年 2 月 18 日

「ブラインドスキーを楽しむ」

－ 愛好家グループの合宿 －

寒い冬だからこそ楽しめるスキー。視覚障害者と晴眼者とと一緒にスキーを楽しむブラインドスキーの愛好家グループが各地で活動している。

関東周辺から仲間が集う「かながわブラインドスキークラブ」の合宿の様子を取材した。

(山縣章子)

1 月下旬、新潟県湯沢町の岩原スキー場で行われた合宿には約 40 人が参加。視覚障害者はおよそ 3 分の 1 だ。

時折雪が強く降る中、声掛けや安全確認をする晴眼者のガイド研修の様子を覗いた。二人一組でガイド役が後ろから声をかける。「右ターン。はいそのままいいよー。はい左」。前を滑るスキーヤーとの間は 1.5 メートルほど。それ以上離れると声が聞こえにくい。前後の役を入れ替え、その人が曲がりやすいタイミングを確認しながら何度か滑った。

「次は目を閉じて滑ってみましょう」。私も挑戦した。左右の方向も本当に滑っているのかどうかもわからなくなった。まさに声だけが頼り。掛けられる声に従ってターンを続けて何本か滑った。怖さは少しずつ和らぎ、声に操られて滑っているような感覚になった。ガイドとの一体感はいかかと思った。

スキー場ではガイドが二人付く三人一組で滑っている。ガイドは周囲の様子にも気を配る必要がある。滑り出す時には前後の安全を確認し、緊急時には「転べ」と声を出す。同クラブでは合宿中の夜の会議で他のスキーヤーとの急接近のケースなど危ない事例を報告しあい共有している。

今回で 4 回目の参加という川崎市の岡部正志さん (43 強度の弱視) は、見えていた学生時代に少しスキーをした程度だったが、ブラインドスキーに挑戦。回数を重ね少しずつ上達し、今では「雪の上を滑る感覚やスピード感が楽しい」と言う。最近は新しいことに挑戦するなど前向きになったそうだ。「夜に酒を飲みながらいろいろな世代の当事者と交流できるのも楽しみの一つ」と話す。

周囲に安全への協力を呼びかける意味もあり、ブラインドのスキーヤーとわかるよう蛍光色のビブスを着用して滑る。リフト待ちのときや昼食時には周りのスキーヤーから声をかけられ、新たな交流につながることもあるそうだ。

岩鞍スキーツアー

実行委員長 T.T.

去る2月17日(土)～19日(月)に群馬県片品村のホワイトワールド尾瀬岩鞍スキー場へのツアーを実施しました。参加者は、ブラインド11名、パートナー23名、の計34名。横浜駅発のツアーバスで移動し、ロジカぶらぎに宿泊。

17日は関越道にて、複数の事故渋滞に巻き込まれ約1時間半遅れてのスキー開始となり、各班数本のための滑降でした。往路途中、バス車内にてオリンピックフィギュアスケートの羽生、宇野選手の金、銀メダル獲得の一報に、車内は歓喜に湧きました。

18日は時折雪が舞うなか、気温が上がらないため雪面のコンディションはよく、満足のいく滑りができました。

夜の懇親会では、トランプ大統領に扮した仮面姿の迷(?)司会者I.K.さんの進行により、参加者の親睦が深まりました。

19日は好天のなか、昨日同様気温も上がらず、今回最高のコンディションで滑りを満喫。新人パートナー2名も研修のあと、早速ブラインドの誘導を体験していただきました。今シーズンのテーマは昨年に引き続き、「安全第一！ヒヤリハット報告、そしてもう一本よりこの一本!!」で取り組んだ結果、一部物損事故のみで、大きなけが人を出す事なく終えることができました。

3、参加者の声

Blind Ski Clubに参加して

H.H.

今回blind ski clubに初めて参加させて頂きました。自身、スキーが15年ぶりで、非常に楽しみにしていたのですが、体力が持つか心配もありました。グループ分けを聞いた際、不安感が生まれ、その不安感はその日の午後には現実となり、恐怖感や一本滑っただけでの太もも筋肉痛など、いろいろでした。

15年のブランクの大きさを突き付けられたのですが、パートナーさんや皆様の親切で丁寧なご指導で、昔の感覚が徐々に戻って来ました。スキーの楽しさが日ごとによみがえって来て、最終日ももっともっと滑りたい気持ちを抑えバスに乗車しました。

今回を期に、昔のようにいっぱいスキーに行こうかと考えております。参加していらっしゃる方々に温かく受け入れて頂き、本当に楽しくあっという間の3日間でした。ありがとうございました。次回も是非参加したいと思っています。

PS. 帰宅後3日間はひどい筋肉痛で苦しみました。次回までに、もう少し脚力を付けてきたいと思っています。

岩鞍ツアーに参加して

M. K.

友人からブラインドスキークラブを紹介されたのが五年前。六年前から始めた農業に目処がついた今年、思い立ち岩原へ出かけてみました。

まずは「見学」と云う事で岩原の一泊と半日の短時間でしたが、そこで目にしたのはブラインドの方が楽しそうに滑っている姿、それを支えるスタッフの包み込むような眼差し、そしてクラブ全員のはじけるような笑顔でした。

その楽しさに誘われての岩鞍の二泊三日。二十年ぶりのスキーでしかも我流の滑りでは、悲しいかな！追走しても間隔を保つ事も出来ず、声掛けのタイミングもズレ、状況の変化にも対応出来ず、とヒヤリハットの連続でした。難しい、奥が深い、でも一緒に滑れたらどんなに面白いのか、知らなかったスキーの楽しさを教えて頂きました。

パラリンピックなどを通じ身障者の方とそのスポーツを取り上げるメディアが増えてきました。ただ何処までやっていいのか、やってはいけない事はなんなのか、は寝食を共にしないと判りません。画面からは伝わりません。知らなかった世界を垣間みることが出来た貴重な時間でした。

次回はブラインドの方に楽しんで頂けるように、そして私も楽しめるようになるかなー？ちょっと楽しみ！

Ⅲ. 2018年度総会と懇親会のお知らせ

1. 2018年度総会

日時 : 2018年 5月13日(日) 14:00~17:00

会場 : 神奈川県ライトセンター 2階 第3講習室 AB

内容 :

<議事>

1. 2017年度 事業報告・決算報告
2. 2018年度 事業計画・予算(案)
3. 2018年度 役員承認
4. その他

<意見交換>

* 内容については検討中です

2. 懇親会

日時 : 5月13日(日) 17:15~19:30 (中締め予定)

(飲み放題が時間無制限のため、お店の閉店 23:00 に締めます。)

場所 : 二俣川「牛タン 圭助」(045-392-1109)

二俣川北口から4分(ライトセンターに向かう途中の商店街にあるお店)

会費 : 4,000円 _____

3、 総会出欠席の回答について

- ① ニュースの点字版・墨字版の方は同封した返信回答ハガキで回答をお願いします。
- ② ブラインドの総会回答のハガキは表面の下側に回答者の住所・氏名を書き込んだシールを貼って有ります。ハガキ下表面(宛名の書かれた面)の左角に直径5ミリの穴が空いていますので、その穴を左下にして右上の対角線上の角が総会と懇親会の両方に参加する方、左上が総会だけに出席する方、右下が懇親会だけに参加する方として、1センチ程度斜めに切り取ってください。総会に欠席される方は出欠回答ハガキの文書面に押印又はサインをいただければ議長に対する委任状とさせていただきます。
- ③ 晴眼者は回答ハガキに氏名と通信欄に必要事項を記入ください。

回答はがきの返信は総会の成立にも関わります。毎年、回答はがきの返信が少なく直前まで苦慮しています。返信にご協力ください。

同封の出欠回答はがきは 4月30日までに投函ください。

IV. **お願い**

会計より、会費の納入についてのお願いです。

2017年5月1日から2018年3月31日までの 会費を納入されていない方には、振込用紙を同封させていただきます。 4月30日までに納入願います。

なお、2016年5月1日から2017年4月30日までの会費を納入されていない方が、御三方おられます。

【ご注意！】

2年間、会費を納入しておられない方は、休会扱いとなります。予めご了承ください。

////////////////////////////////////

【編集後記】

今年の冬は日常生活のなかでは降雪に悩まされた年でしたが、わたしたちスキーヤーにとっては、昨今の雪不足を心配することなくスキーを楽しめた年になったようです。

さて、今シーズンは怪我人のでる事故もなくシーズンを終えることができ、安堵しています。これも、夕食時の反省会やヒヤリハットの抽出など、事故撲滅のための取組みを定着化していこうというスキー実行委員会の取組みがあつての結果ではないでしょうか。感謝！

そして、懸案だったサポートガイドラインが完成、更にカルテの更新も進行中です。安全にスキーを楽しむための当クラブの「ノウハウ」や「資産」が増えてきていることを感じます。

広報担当：K.N.

////////////////////////////////////